

日本未熟児新生児学会 平成25年度 評議員会議事録

日 時：平成25年11月30日（土）12：00～13：00

場 所：石川県立音楽堂2階邦楽ホール（第2会場）

議 事

I. 協議事項

1) 平成24年度決算に関する件（本間幹事）

平成24年度一般会計、特別会計（会員名簿のための積立金、事務所移転積立金、学会賞基金、佐多フェローシップ、AJフェローシップ、総会補助金）各決算について資料に基づき説明が行われた。総会において承認を得ることとなった。船戸監事・堺監事による監査報告も行われた。

2) 平成26年度予算に関する件（本間幹事）

平成26年度予算について資料に基づき説明・報告があり、承認された。総会において承認を得ることとなった。

3) 新名誉・功労会員の件（戸荊理事長）

著名な先生方の退任につき、残念であるがお認めいただきたい旨理事長より呼びかけがあり、承認された。戸荊 創先生と山南貞夫先生は評議員を継続する。新名誉・功労会員は総会で報告し、感謝状をお渡しする予定である。

新名誉会員：伊藤 進先生

新功労会員：田澤雄作先生、樋口隆造先生、前多治雄先生、山崎 明先生

4) 次期評議員予定者の件

次期評議員219名について理事長から報告があり、承認された。

5) 日本未熟児新生児学会 利益相反指針（案）について（和田理事）

資料に基づき和田理事より説明が行われ承認された。総会において承認を得ることとなった。

6) 次期会長に関する件（戸荊理事長）

理事会において次期会長に梶原真人理事が選出された旨報告があり、承認された。総会において承認を得ることとなった。

7) 次期副会長に関する件（戸荊理事長）

理事会において次期副会長に千田勝一理事が選出された旨報告があり、承認された。総会において承認を得ることとなった。

8) その他

II. 報告事項

1. 理事長報告

1) 韓国新生児学会交流の件

学術集会第1日、11月30日（土）15：00～15：30に第1会場にてYoung Sook Hong先生に「Developmental origins of health and disease : the risk of cardiovascular and renal diseases in low birth weight infants」のタイトルでご講演いただく予定だったが、急遽変更となりBeyong IL Kim先生に「Research experience on clinical characteristics, epidemiology, and pathogenesis of bronchopulmonary dysplasia prematurity in Korea」のタイトルでご講演いただく予定である。来年度の春季韓国新生児学会では、第59回会長の梶原真人先生にご講演をお願いする。

2) 役員選挙について

告示日 12月3日(火) / 投票締め切り 12月18日(水) / 開票 12月19日(木) 午後3~6時の予定で役員選挙を行う。総会で承認される次期評議員 219名の中より 15名の理事, 2名の監事を選出し, 年内または年明けに新理事会を行う予定である。

選挙管理委員は, 河井昌彦先生, 白石 淳先生, 芳本誠司先生の3名である。

3) SIDS 対策強化月間について

厚生労働省から「SIDS 対策強化月間 (11月) の実施について」連絡があった。

4) 委員会活動費の件

今年度の委員会活動に関わる支出があれば, 事務局へ申告するよう連絡があった。

5) 文献許諾使用料の件

メテオ社の7~9月の文献使用料は合計 682円(今年度合計 2,362円)であった。

支払い金額が税込みで 10,500円を超えた時点で指定口座に振り込まれることになっている。

6) 寄付の件

第57回日本未熟児新生児学会学術集会会長 近藤理事より, 2月12日に総会補助金口座に500万円を総会補助金口座に寄付していただいた。

7) 在胎期間別出生時体格指標の計算用 Excel ファイル作成の件

日本成長学会・日本小児内分泌学会合同標準値委員会と日本未熟児新生児学会の共同制作により, 在胎期間別出生時体格指標の計算用 Excel ファイルが作成され, 9月18日に学会ホームページに公開した。Excel ファイルに LMS 値を組み込んでおり, 必要な情報を入力すれば日齢ごとに身長, 体重, 頭囲のパーセンタイル値と SD スコアを計算できる。合わせてフォローアップ用として BMI, BMI パーセンタイル, BMI-SD スコア, 身長 SD スコア, 肥満度と IGF-I パーセンタイルと IGF-I-SD スコアを表示させるシートも作成されている。積極的な活用が呼びかけられた。

8) 産科医療補償制度からの資料提供の件

公益財団法人日本医療機能評価機構より資料提供のあった「産科医療補償制度 見直しに係る中間報告書」と「産科医療補償制度医学的調査専門委員会報告書」を学会ホームページにアップした。また, 8月に本学会全会員に「補償申請のお願い」文書を郵送したことについて謝辞文書をいただいた。

9) 厚生労働省に要望書を提出した件

「大規模災害時の乳児栄養の確保についての要望書」および「総合周産期母子医療センターに衛星電話を整備する要望書」について日本周産期・新生児医学会をはじめとする6団体と共同提言を行った。産科医療補償制度の対象拡大に関する要望についても本学会から厚生労働省に要望書を提出している。

10) CDISC 標準入門セミナー開催の周知依頼があった件

UMIN より来年1月23日に開催されるセミナーの周知依頼があり, 学会ホームページに掲載した。

11) 米国小児科関連学会 2014 年度学術集会における発表者推薦について

日本小児科学会での選考の結果, 本学会から推薦した大阪大学小児科の坂野公彦先生が選出された。

2. 会長挨拶 (久保会長)

久保会長よりご挨拶とプログラム内容の紹介があった。

3. 庶務報告 (本間幹事)

1) 新入会者, 退会者の件

全会員数 3,257名(昨年報告数 3,277名), 非医師数 79名, 名誉会員 27名, 功労会員 57名, 理事 20名, 評議員 197名, 購読会員 31件, 新入会員 272名, 退会者 292名などが報告された。

平成 24 年度末資格喪失者は 88 名であった。

2) 会費滞納者の件

平成23年度以降会費が未納で、平成25年度退会予定となっている123名について、資料に基づき報告された。2月の通常請求後、10月に再請求を行った。12月末日までに振込みがない場合には資格喪失退会となる。

4. 各種委員会報告

1) 日本未熟児新生児学会賞選考委員会（戸荊委員長）

平成25年3月に通信で学会賞選考委員会が開催され、小泉亜矢先生（群馬大学大学院周産母子センターNICU）の「超音波断層法を用いた末梢穿刺中心静脈カテーテル関連血栓症の検討」が採択された。11月30日（土）14:10～14:30 第1会場にて受賞記念講演が行われる。

2) フェロシップ選考検討委員会（戸荊委員長）

今年度のアッヴィフェロシップ（AJフェロシップから改名）採用者49名（演題）について資料に基づき報告があった（昨年は61名）。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印を付し、採用者は懇親会会場および演題発表時に「アッヴィフェロシップ」の赤い名札を着用しているの、温かい声かけをと呼びかけられた。また、佐多フェロシップ留学体験は12月1日（日）11:30～11:40 第2会場にて「英国で学んだ科学的思考」と題し岩谷壮太先生に報告を行っていただく。

3) 薬事委員会・新生児の輸血問題小委員会（伊藤委員長・小山委員長）

- ・ドキサプラム塩酸塩水和物注射液の供給継続に関する要望書（案）、チョコラA（錠、滴、末）の継続提供要望書を学会から提出することが決定した。チョコラAについては2007年にも提出している。
- ・B型肝炎予防のために出生直後に行うHBグロブリンとHBワクチンが2013年10月18日の薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会で公知該当性が了承され、10月18日から投与方法の変更が保険で認められた（HBグロブリンは出生後12時間以内に1回、HBワクチンは出生後12時間以内、1カ月、6カ月）。
- ・未承認薬・適応外薬のプライオリティリストに新生児発作（けいれん）に対してのホスフェニトインと早産児（未熟児）網膜症に対してのベバシズマブ注を入れた。
- ・今年4月から日赤から交換輸血の合成血供給が6時間以内に可能になったと報告があったので、優先して使用していただきたい。日赤は、合成血使用の可能性が考えられた段階で、早めの連絡をいただきたいとのことである。また、合成血液の検証のため、学会ホームページで血液が供給されたかどうかの調査を開始したいと考えている。交換輸血を行っている方はぜひご登録いただきたいと呼びかけられた。

4) 雑誌編集委員会（千田委員長）

2013年受付投稿原稿は29編で例年通りの投稿数であった。評議員へ査読について協力依頼があった。

5) 教育委員会（中村委員長）

福島県猪苗代町で行われた第17回教育セミナーのワークショップ発表会が12月1日10:40～11:30に第2会場で行われる。来年の第18回教育セミナーは平成26年8月21日（木）～23日（土）に長野県のほりで一ゆ～四季の郷で開催するが、その前日に初期研修医を対象にしたセミナーも合わせて開催予定にしている。

6) 社会保険委員会（中尾委員長）

平成26年度診療報酬改定に向けての要求項目は現在審議中である。公知申請等によりHB γ グロブリンワクチンとHBワクチンの投与方法の変更が保険で認められた。またシナジスが保険適応となった。中医協では新生児特定集中治療室管理料について議論されている。

7) 医療器材の安全性確認委員会（猪谷委員長）

学会ホームページから医療器材の不具合について情報登録できるようになった。まだ実際に登録はなく、積極的な利用が呼びかけられた。

- 8) サーベイランス委員会（久保委員長）

希有疾患サーベイランスは、ダウン症候群に合併した一過性骨髄増殖症（TAM）が平成25年3月1日で調査を終了した。現在は急性期離脱後の極低出生体重児に対する溶血性貧血、先天性間質性肺疾患について調査中で順調に登録されている。Webの全件登録システムは学術集会終了後に進めていく予定である。
- 9) 規約改定委員会（上谷委員長）

法人化について、来年度からの新理事会で検討を行っていく予定である。
- 10) 学術集会の在り方検討委員会（梶原委員長）

例年通り第58回学術集会のアンケート調査について回答が呼びかけられた。
- 11) 広報委員会（側島委員長）

従来の紙媒体での会員名簿の発行を廃止し、会員専用ページに会員検索システムを導入した。医療器材の不具合報告や交換輸血の実態調査に関する内容もホームページに掲載しているため、活用が呼びかけられた。
- 12) 倫理問題検討委員会（田村委員長）・利益相反小委員会（和田委員長）

先ほど承認いただいたCOI指針について来年1月より運用開始予定である。
- 13) 医療の標準化検討委員会（楠田委員長）
 - ・厚生労働科学研究「周産期医療の質と安全の向上のための研究」は今年で3年目を迎え順調に進んでいる。
 - ・早産児の鉄剤投与のガイドラインの改訂作業、藤村班で行っていた新生児臨床研究ネットワークデータベースの10年間の記録集を作るために小委員会を設けて実施する。
- 14) 医療訴訟問題検討委員会（板橋委員長）

特になし。
- 15) 医療提供体制検討委員会（茨委員長）

全国の新生児医療施設の人的資源、新生児搬送体制、都市部と地域での違いの明確化、バックトランスファーの現状を調査する予定。調査について協力が呼びかけられた。
- 16) 感染対策／予防接種推進室（北島室長）
 - ・HBワクチンの新基準については小児科学会からの報告を待っているところである。
 - ・タミフルの乳児への使用に関する適応拡大について本学会からも要望書を出したいとの提案があり継続審議となった。詳細は委員会で検討を行う予定である。
- 17) 男女共同参画推進委員会（和田委員長）

新しい評議員に女性を推薦していただくよう要望し、平成26年度は10名以上誕生した。今回の学術集会でも12月2日9:00～11:00第2会場にてシンポジウム「男女共同参画委員会企画—キャリアを育むために—」を開催予定である。
- 18) 災害対策委員会（和田委員長）
 - ・災害時の連絡網については、新生児医療連絡会ホームページを通じて登録していただいている。
 - ・救児募金は新規の入金は減少しているが、少なくとも今後5年間はニコニコキャンプに寄付できる見込みである。
 - ・気仙地区のロタワクチン無料接種実施事業についても救児募金から支出している。
- 19) 産科医療補償制度対応委員会（板橋委員長）

周知活動の結果、補償される児も増えたが、まだ予定よりも申請が少ないため、対象と考えられる場合には年内に申請をお願いしたいと呼びかけられた。5年目を迎え、産科医療補償制度の見直しが運営委員会を中心として進んでいるが、まだ正式なことは決まっていない。
- 20) その他
 - 初期研修医向け教育セミナー開催（田村理事）

新生児科医が少なくなっている現状を改善するため、教育セミナーの前日に初期研修医を対象にセミナーを開催することとなった。

●国際小児科学会（IPA）からの諮問について（千田理事）

国際小児科学会（IPA）が「A Global Action Plan To End Preventable Deaths」のドラフトを作成したとのことで、日本小児科学会にレビュー依頼があり、本学会で検討を行った。主に開発途上国を対象としたものであり、日本に対応するものではないが、本学会としては趣旨に賛同する旨、日本小児科学会に回答することとなった。

●日本小児科学会小児慢性疾患委員会の件（板橋理事）

慢性肺疾患・肺胞蛋白症について、現在、診療ガイドラインの作成にとりかかっている。小児慢性疾患の意見書作成の各担当は、慢性肺疾患を南 宏尚先生、肺胞蛋白症を長 和俊先生に担当していただいている。今後、ワーキンググループ設立について関わっていく予定である。

●「NICUに入院している新生児の痛みの軽減を目指したケア」に関する声明（側島理事）

日本新生児看護学会など4学会の派遣委員で構成されている「新生児の痛みの軽減を目指したケア」ガイドライン作成委員会が声明をまとめた。これについて、本学術集会2日目の12月1日に新生児看護学会と合同シンポジウムを開く予定である。声明文は学会ホームページに掲載している。

●国際新生児学会議（2014 INAC）について（楠田理事）

平成26年4月3～5日、スペインのバレンシアにて開催される。日本からぜひ応募してほしいとの依頼があった。世界的に有名な演者の講演が予定されている。

●第50回日本周産期・新生児医学会について（楠田理事）

平成26年7月13～15日に開催予定である。

Ⅲ. 新 / 会長・副会長挨拶

新会長：梶原真人理事（愛媛県立中央病院）

2014年11月10日（月）～12日（水）にひめぎんホール（愛媛県県民文化会館）にて「温故知新」をテーマに開催予定である。

新副会長：千田勝一理事（岩手医科大学小児科学講座）

2015年10月23日（金）～25日（日）いわて県民情報交流センター「アイーナ」/盛岡市民文化ホール「マリオス」にて開催予定である。